

石教研音楽部会 研究授業レポート（中学校）

[日 時] 2023年7月4日（火） 4校時

[授業者] 浜益中学校 石井紀実子

第2学年 音楽

[題 材] 創作 音のスケッチ

「平調子の特徴を生かして音楽をつくろう」

1. 授業者より

昨年度も公開した学級での授業である。昨年度、「日本語の抑揚を生かした旋律をつくろう」という創作の授業を実施したので、今年度も創作の授業に挑戦することにした。

第1学年時に実施した、箏の演奏もすらすら出来ることから、「さくさくら」の前奏・後奏の創作に取り組んだ。

「平調子の響き」や「まとまり」をつかむことが難しいのではないかと予想した。その解決策として、第1時2時の取組を文字にして、パワーポイントで電子黒板に表示することにした。教科書、ワークシート、パワーポイントと、生徒にとって情報量が盛りだくさんになってしまったことが反省である。

内容としては、難しくはない内容だったが、じっくり、納得するまで考える生徒たちなので、作品を創り、それを表現するには時間が足りなかった。時間の使い方や、創作量の調整が今後の課題として見えてきた。

その後、7月にもう1時間後奏を創る授業を実施して、夏休みに入った。前奏と後奏をつけた演奏の発表は、9月になってから行う予定である。（8月29日現在）夏休み明け以降も、音楽室に箏を置いたままにして、いつでも気軽に演奏できるようにしている。他学年の生徒と一緒に演奏したり、教えあったりしている姿が見られる。

2. 参観者より

・評価規準について見直す必要がある。教科書会社から提示されている指導書と、国立教育政策研究所から提示されている「学習評価に関する参考資料」にはずれがあるので注意。

・知識、技能においては概ね満足できる生徒たちなので、今後は思考、判断、表現の部分に力を入れるとよい。

- ・昨年と比べて、ひとりひとりがより主体的に活動に取り組み、作品づくりにおいて他と積極的に関わろうとする姿も見られ、一年間の学習活動の成果が見られた。
- ・本時の展開について、前時までの学習内容(となりどうしの音を並べるとよい、同じリズムを繰り返すとよい、セット・連続して使うとよい…)や、本時の目標(愛着のもてる…)が導入部分でしっかりと確認されており、日々の授業の積み重ねを感じた。
- ・まとめの部分では、作品を発表する前に、簡単でよいので作品づくりでこだわったポイントも発表させると、聴いている生徒もそれを意識した感想を交流でき、「愛着のもてる…」の部分の評価にもつながるかと思う。
- ・「箏」という楽器を扱うにあたって、メンテナンスや調弦、楽器の数などの課題がある。今後も学校間で情報を共有し、互いに学んでいけるとよい。
- ・「愛着の持てる」というという目標に対する、評価材料としては、本時の展開後半～まとめにかけて「工夫したこと」などを発表する予定だったが、時間がなく出来なかった。ワークシートへの記入などで対応するとよい。

3. まとめ

創作の授業を通して、音楽活動の楽しさを体験させ、音楽に親しんでいく態度を養うために、「愛着のもてる『さくらさくら』」の完成を目標とした。

作品を創る中で、音を鳴らし、そこから感じたことに対して「これは違う」「こっちの方がいい」など、自分の思いを述べながら、協働的に創作活動をする姿が見られた。このことから、「愛着のもてる『さくらさくら』」を完成させることができたのではないかと考える。

評価規準、時間配分、発展的な学習をどこまで広げるかなどの課題が見えてきたので、今後の授業改善に生かしていきたい。

